

地域づくり活動 NPO 事業助成事業 実績報告

事業区分 (13-11)

団体名	(特非)みらぽて	代表者名	理事長 宮永 麻紀
事業名	不登校や登校しぶりのある子どもと親のサポート事業		

<事業実施実績>

年月日 定例は「月1回」「毎○曜日」等で記入	場所	参加者 一般 (スタッフ)	活動内容 (勉強会や定例会、講演会、イベントなどを幅広く記入) ※講演会、イベント等はタイトル・講師・会場等を併記
4月～3月 毎週月曜日	コミセン おの分館	延べ 205	子どもの居場所『みらぽてLAB.』 家でも学校でもない、安心して過ごせる子どもの第3の居場所。親でも先生でもない、地域の大人や学生と繋がり心の拠りどころとなる関係づくりを心掛けている。
4月～3月 第4土曜日	コミセン おの分館	延べ 53	親の会『ほっとカフェ』 小中学生の保護者を対象とした、不登校児の親の会。当事者同士が悩みを吐き出し共有することで、孤独感や不安が軽減され情報交換にも繋がる。
9月～3月 第3金曜日	コミセン おの分館	延べ 19	親の会『ほっとカフェ・夜部』昼の会に参加されていた方が、子どもが中学卒業し、義務教育期間が終わった後の進路や将来の悩みを共有する場。
7月27日	コミセン おの分館	7 (9)	夏休みオープンスペース『宿題やっつけ隊&英語であそぼ』 午後から、兵教大院の留学生2名を講師に、英語であいさつや歌遊び、ボードゲームなどを通して交流。
8月 3日	コミセン おの分館	7 (7)	夏休みオープンスペース『宿題やっつけ隊&英語であそぼ』 午後から、兵教大院の留学生2名を講師に、英語の歌遊びやピニャータ制作を行う
8月10日	コミセン おの分館	8 (7)	夏休みオープンスペース『宿題やっつけ隊&英語であそぼ』 午後から、兵教大院の留学生2名の講師と、工作材料調達に買い物に行く。英語を使って買い物を体験。
8月17日	コミセン おの分館	4 (6)	夏休みオープンスペース『宿題やっつけ隊&英語であそぼ』クッキング 留学生講師も朝から参加し、おにぎりや豚汁などを説明を英語に訳してもらいながら一緒に作り食事をした。
8月24日	コミセン おの分館	8 (9)	夏休みオープンスペース『宿題やっつけ隊&英語であそぼ』フィナーレ 留学生講師2名に英語でお礼のメッセージを書く。午後からは修了式と全員でピニャータを割る。
10月10日	みらぽて 農園	6 (4)	親子体験イベント「お芋掘り&野菜収穫体験」
11月 8日	エクラ サール室C	7	19:00～22:00 LAB. 事業運営会議・スタッフミーティング LAB. の現状について、来月以降のプログラムについて、今後の予定確認
12月 6日	エクラ サール室A	7	19:30～22:00 LAB. 事業運営会議・スタッフミーティング 子どもたちの様子を報告しあう、来月以降のプログラム(行事)について、今後の予定確認

12月15日	山田農園	4 (2)	親子体験イベント「お芋クック&ファーム体験」 10月に収穫したサツマイモを使ってお菓子作り & 野菜の収穫体験
12月17日	エクラ 中会議室	14 (8)	多様な学び講演会 『一人ひとりの学び方～安心できる居場所の必要性～』
1月17日	エクラ サクル室C	5	19:30～22:00 LAB. 事業運営会議・スタッフミーティング 子どもたちの様子を報告しあう、来月以降のプログラム(行事)について、は ーとシップフェスタ出展について
1月22日	山田農園	8 (6)	親子体験イベント「本格お餅つき大会」
2月14日	エクラ サクル室C	6 オンライン	19:30～22:00 LAB. 事業運営会議・スタッフミーティング 子どもたちの様子を報告しあう、来月以降のプログラム(行事)について、は ーとシップフェスタ出展についての最終確認と工作の仕上げ
2月26日	enのすみか	12 (5)	地域交流団体en共催・地域交流体験イベント「自家製味噌づくり体験」 親の会ほっとカフェの参加者と、地域交流団体メンバーと一緒に体験。
4月～3月 随時			無料相談 公式ラインから5名、電話相談3名、ホームページから2件(面談につながる)、 InstagramのDMから1件(単発相談)

<効果と成果>

通信制高校のサポート校ともつながり、今後の進路相談や進学への選択肢を増やすことができました。教育機会確保法についての講演会をしたことで、保護者の方が学校への要望などを伝える勇気を持ち、相互の連携を取りやすくなった家庭もあり、中学校に配置されているスクールソーシャルワーカーと当団体とが情報共有のため連絡を取り合うことも増えました。

また、市民活動支援センターで地域交流団体と繋がり共催で体験交流会をしたことで、地域の方やより多くの人に不登校や教育の在り方について知ってもらえました。一般の方にスピーカーになってもらうことで必要などころへ情報が届きやすくなりました。悩んでいる家庭を孤立させず、誰もが気軽に訪れ相談できる場所があること、保護者の拠りどころがあることを伝えて頂き、このように口コミでの広がりも出てきました。

さらに市教育委員会が、市議会の答弁で「子どもが安心して過ごせる居場所をNPOが担ってくれているところがある」というようなことを発言されていました。また、市教委不登校担当者・障害福祉課・発達支援室との協議の場を設けて頂くことができました。

<今後の展望>

子どもと親が安心して過ごせる居場所・社会にする為に

●子どもの居場所（フリースクール）

週1回しか開けられない状態だが、子どもがいつでも利用できるよう常時開催を目指す。

子どもと親の不安や未来への生き方をサポートできるよう、進路の可能性や、連携を増やす。

●保護者の会（おしゃべり会）

親の不安や悩みを吐き出し、解消できる場を設ける。共感など一人にさせない取り組み、情報交換の場とする。

また、親の声を拾う事で、子どもの居場所に求められている事を知り、運営の参考にしたい。

●無料相談

いつでも相談でき、必要ならば関係機関に橋渡しをする。

心のSOSを素早くキャッチし、少しでも早く問題が大事になる前にサポートしていきたい。

<収支決算書>

(収入)

項 目	金 額 (円)
地域づくり活動 NPO 事業助成金	450,000
自己資金	70,862
参加費等	214,400
合計	735,262

(支出)

区分	項 目	金 額 (円)	左のうち 助成対象金額 (円)
直接 経 費	人件費	408,000	250,000
	消耗品費	76,184	71,280
	会場費	18,550	18,000
	その他 (広告宣伝費、通信運搬費等)	100,853	70,720
	小 計	603,587	410,000
間接経費 (一般管理費)		131,675	40,000
合 計		735,262	450,000